

## 1 製品の概要

Novell Vibe OnPrem 3.1 では、Vibe のユーザおよび管理者の両者にとって、以前の Vibe のバージョンに比べ、以下のような多くの拡張機能を備えています。

### ユーザ向け

- ◆ **タスクの改善点** : ユーザはサブタスクを作成、管理したり、リンク済みタスクを作成することなどができます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 ユーザガイド](#)』の「[Working with Tasks Folders](#)」を参照してください。
- ◆ **ランディングページの改善** : ユーザはドラッグアンドドロップによりランディングページエディタのエレメントの場所を修正でき、HTML エディタなどを使用して HTML を入力できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Setting Up Your Landing Page](#)」を参照してください。
- ◆ **新機能ページの改善** : 「新機能」ページでは、ユーザがエントリに対してコメントを入力したり、エントリを共有したり、タグを付けるなどのことが、「新機能」ページからすべて直接行うことができます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 ユーザガイド](#)』の「[What's New](#)」を参照してください。
- ◆ **ワークスペースとフォルダのクォータ** : ワークスペースとフォルダの所有者は、ワークスペースとフォルダにデータクォータを設定できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 Advanced User Guide](#)』の「[Setting a Data Quota for Workspaces and Folders](#)」を参照してください。
- ◆ **フォルダ表示の改善** : フォルダ所有者は、列のタイトルと列の表示順序を変更することにより、フォルダの列を変更できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 ユーザガイド](#)』の「[Configuring Folder Columns](#)」を参照してください。
- ◆ **ワークフローの改善** : ワークフローの作成者は、手動の遷移を実行できる人、すべての人が応答した後でワークフローを遷移するかどうかを指定し、通知が送信される個々の電子メールアドレスを指定できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Setting Access Controls on a Manual Transition](#)」、[Designating Specific Users to Respond to a Workflow Question](#) および [Sending E-Mail Notifications](#)」を参照してください。
- ◆ **個々のフォルダの通知** : フォルダの所有者は、それらのフォルダに対して固有のダイジェスト通知を設定できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Configuring Folders to Send E-Mail Notifications to Other Users](#)」を参照してください。
- ◆ **すべての送信済み電子メールのトラッキング** : Vibe サイトの個人の電子メール送信ボックスと同様に、Vibe サイトから個人的に送信するすべての電子メールメッセージを受け取るフォルダまたは電子メールアドレスを構成できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Setting Up a Folder or External E-Mail Address to Receive All Sent E-Mail Messages](#)」を参照してください。

## 管理者向け

- ◆ **検索の向上点** : Vibe 3.1 の検索機能が改善され、Vibe の過去のバージョンよりも正確で効率的になりました。デフォルトでは、検索は継承した意味を持たない単語を自動的に削除し、ユーザが指定したものそのものではなく単語の語源を検索し、アクセントを含むかどうかにかかわらず単語を返します。さらに、Vibe 管理者は、これらの機能を構成するか、無効にできます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 管理者ガイド](#)』の「[Understanding and Configuring Search Functionality](#)」を参照してください。
- ◆ **ユーザの無効化** : 管理者は Vibe ユーザアカウントを削除する代わりに、無効化できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 管理者ガイド](#)』の「[Disabling Vibe User Accounts](#)」を参照してください。
- ◆ **ドメインによるユーザのアクセス権の制限** : 管理者はユーザのアクセス権を、Vibe システムをアクセスするために使用しているドメインに応じて制限できます。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 管理者ガイド](#)』の「[Restricting Access Rights of Users Outside the Firewall](#)」を参照してください。

## 2 Vibe のシステム要件

Novell Vibe 3.1 システム要件 (Vibe モバイルインタフェースをアクセスするモバイルデバイスの要件を含む) は、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』の「[Vibe OnPrem System Requirements](#)」にリストされています。

## 3 Linux インストール手順

- 1 Novell Vibe をインストールする予定の Linux サーバが、システム要件を満たしていることを確認します。
- 2 Web サーバが現在 Vibe サーバで実行中の場合、それを停止し、可能であれば無効にします。
- 3 Vibe ディレクトリおよびファイルを所有させ、Vibe ソフトウェアを実行させる root 以外の Linux ユーザおよびグループ作成し、選択します。
- 4 Linux サーバ上の一時ディレクトリに Vibe ソフトウェアをダウンロードします。
- 5 ターミナルウィンドウで、su およびルートパスワードを入力して、ルート権限を取得します。
- 6 Vibe 3.1 tar ファイルがダウンロードする一時ディレクトリに変更し、ファイルの次のコマンドを使用して解凍 (untar) します。

```
tar xvf novell-vibe-3.1.0.linux.tar
```

- 7 Vibe ソフトウェアをダウンロードして解凍したディレクトリで、以下のコマンドを入力して Vibe インストールプログラムを開始します。

```
./installer-teaming.linux
```

インストール手順の詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』で説明してあります。

## 4 Windows インストール手順

- 1 Novell Vibe をインストールする予定の Windows サーバが、システム要件を満たしていることを確認します。
- 2 管理者権限で Windows サーバにログインします。
- 3 Web サーバが現在 Vibe サーバで実行中の場合、それを停止し、可能であれば無効にします。
- 4 Windows サーバ上の一時ディレクトリに Vibe ソフトウェアをダウンロードします。
- 5 Windows エクスプローラで、Vibe ソフトウェアをダウンロードし展開するディレクトリをブラウズしてから、installer-teaming.exe ファイルをダブルクリックし、Vibe インストールプログラムを起動します。

インストール手順の詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』で説明してあります。

## 5 アップデートに関する問題

- ◆ [3 ページのセクション 5.1 「Vibe 3 システムの更新」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 5.2 「Teaming 2.1 システムのアップデート」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 5.3 「Vibe 3.1 にアップデートするときのワークフローの問題」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 5.4 「高可用性システムを更新する際のインデックスサーバ間の非互換性」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 5.5 「Teaming 2x から Vibe 3 への更新時のキャッシングの問題。x」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 5.6 「以前の Vibe リリースから Vibe 3.1 に更新する場合の問題」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 5.7 「新しいバージョンに更新した後のパフォーマンスの問題」](#)

### 5.1 Vibe 3 システムの更新

Vibe 3 から Vibe 3.1 にアップグレードできます。『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』の「[アップデート](#)」における「[Novell Vibe 3 から Novell Vibe 3.1](#)」へのアップデートを参照してください。

### 5.2 Teaming 2.1 システムのアップデート

Teaming 2.1 またはそれ以前のバージョンからのアップグレードを行う場合、最初に Novell Vibe 3 にアップグレードしてからのみ、Novell Vibe 3.1 にアップグレードできます。Novell Vibe 3 のアップデートの方法については、『[Novell Vibe OnPrem 3 インストールガイド](#) ([http://www.novell.com/documentation/vibe\\_onprem3/vibeprem3\\_inst/data/bookinfo.html](http://www.novell.com/documentation/vibe_onprem3/vibeprem3_inst/data/bookinfo.html))』の「[アップデート](#)」を参照してください。

### 5.3 Vibe 3.1 にアップデートするときのワークフローの問題

Vibe 3.1 のワークフロー機能に行った改善のため、2.1 またはそれ以降を Vibe 3.1 にアップグレードするときに、Vibe サイトを通じてワークフローのアクセス制御機能に問題が発生する可能性があります。アップグレード後に、ワークフローを作成するユーザとその他

の上級の Vibe ユーザは、ワークフローが正しく機能するように保証するために、アクセス制御を含むすべてのワークフローをテストする必要があります。ワークフローのアクセス制御が期待通りに機能していない場合、以下の原因を調査してください。

- ◆ ワークフローが [この状態へ遷移] または [この状態外へ遷移] アクセス制御を含み、ワークフローの遷移エントリへのアクセスをが許可されるユーザがワークフローを通じた遷移の際にエントリが含まれるフォルダまたはワークフローまたはフォルダにアクセスできない場合、ワークフローの遷移エントリにアクセスできるユーザはまた、ワークフローで読み取り権限と変更権限も許可されていなければなりません。

ワークフロー内でユーザにアクセスを許可する方法に関する詳細は、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Adding Access Controls to a Workflow](#)」を参照してください。

- ◆ ユーザがワークフローで変更アクセスを許可されていて、ユーザがワークフローを遷移するときにエントリが含まれるフォルダまたはワークスペースにアクセスできない場合、ユーザはワークフローに読み取りアクセス権も許可されていることが必要です。

ワークフローへの読み取りアクセスをユーザに許可する方法については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Adding Access Controls to a Workflow](#)」を参照してください。

## 5.4 高可用性システムを更新する際のインデックスサーバ間の非互換性

高可用性 Vibe システムを前のバージョンから Vibe 3 またはそれ以降にアップデートする場合、現在存在する遅延ログレコードは互いに互換性がなくなります。

Vibe 3 以降にアップグレードする間の遅延更新ログで非互換性の問題がないことを確認し、アップグレードの前に、すべての遅延更新ログをクリアする必要があります。

遅延更新ログをクリアする方法については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 管理者ガイド](#)』の「[Performing Maintenance on a High Availability Lucene Index](#)」を参照してください。

## 5.5 Teaming 2x から Vibe 3 への更新時のキャッシングの問題。x

Vibe のキャッシュのパフォーマンスチューニングを行った場合に、次の環境設定ファイルのいずれかを変更すると、以前のリリースから Vibe 3 にアップグレードした際にキャッシングの問題が発生する可能性があります。

- ◆ ehcache-hibernate.xml (単一サーバの Vibe 環境)
- ◆ ehcache-hibernate-clustered.xml (クラスタ化された Vibe 環境)

上記のファイルは、Vibe のアップグレード時に上書きされるので、これらのファイルのいずれかを変更した場合のみ問題が発生します。

単一サーバの Vibe 環境を使用しているか、またはクラスタ化された Vibe 環境を使用しているかどうかによって、発生する問題が異なります。

単一の Vibe サーバ用にキャッシュのパフォーマンスを最適化する目的で ehcache-hibernate.xml ファイルを変更した場合、Vibe のアップグレード後にキャッシュのパフォーマンスが低下したことに気付く可能性があります。



システム上の各 Vibe ユーザに、この操作を徹底させてください。

### 5.6.2 定義のリセット

Vibe インタフェースのさまざまな面が、Vibe 3.1 で再設計され、改善されました。これらの機能向上の一部は、エントリ、フォルダ、ユーザープロファイル、およびユーザーワークスペースに影響します。Vibe のこれらの領域にカスタマイズを行っている場合、Vibe 3.1 の拡張機能を利用するにはこれらの定義をリセットする必要があります。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』の「[Updating from Novell Vibe 3 to Novell Vibe 3.1](#)」にある「[Resetting Your Definitions](#)」を参照してください。

### 5.6.3 Vibe 検索インデックスの再インデックス化

検索機能は、Vibe 3.1 で改善されました。最適な検索パフォーマンスのために、Vibe 3.1 にアップグレードした後で検索インデックスを再インデックス化する必要があります。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』の「[Updating from Novell Vibe 3 to 3.1 Novell Vibe 3.1](#)」にある「[Resetting the Search Index](#)」を参照してください。

## 5.7 新しいバージョンに更新した後のパフォーマンスの問題

Vibe システムを新しいバージョンにアップグレードすると、Vibe システムを最初に利用する際にパフォーマンスの問題が発生します。これは、アップグレード後に Vibe で JSP をコンパイルする必要があるためです。

これらのパフォーマンスの問題は、これ以降 Vibe サイトに訪問しても発生しません。

## 6 インストールに関する問題

- ◆ [7 ページのセクション 6.1「Vibe サーバと Lucene サーバは同じ JDK を使用する必要がある」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 6.2 「ユーザ名とパスワードの文字制限」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 6.3 「LDAP 同期およびログインでのユーザ名の文字制限」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 6.4 「ソフトウェアインストールディレクトリ名の文字制限」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 6.5 「ファイルリポジトリディレクトリ名の文字制限」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.6 「デフォルトのデータベース名」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.7 「アプレットサポートの制限」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.8 「Mac ユーザ用のその場編集サポート」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 6.9 「NFS サポート」](#)
- ◆ [9 ページのセクション 6.10 「Windows Server 2008 でのファイアウォール問題 R2」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 6.11 「WebDAV サーバへの SSL 接続の JDK 依存関係」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 6.12「更新された Visual C++ 再配布可能パッケージ \(Windows の場合\)」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 6.13 「Access Manager との互換性」](#)

## 6.1 Vibe サーバと Lucene サーバは同じ JDK を使用する必要がある

Vibe および Lucene インデックスが別々のサーバ上で実行されている場合、両方のサーバで同じ JDK を使用する必要があります。異なる JDK を使用すると、カレンダーのエントリを作成できないなど、望ましくない動作が発生してしまいます。

## 6.2 ユーザ名とパスワードの文字制限

Novell Vibe のユーザ名とパス名に拡張文字または 2 バイト文字を使用しないでください。この中には、LDAP ディレクトリから Vibe に同期化されたユーザ名やパスワードも含まれます。

この制限は、Vibe が認証用のオープンソース [Spring Security \(http://static.springframework.org/spring-security/site\)](http://static.springframework.org/spring-security/site) を、Novell Authentication Manager などの Single Sign-on 製品、Web サービス、および WebDAV によって使用されるさまざまな認証方法 (基本認証 ([http://en.wikipedia.org/wiki/Basic\\_access\\_authentication](http://en.wikipedia.org/wiki/Basic_access_authentication)) とフォームベース認証 ([http://en.wikipedia.org/wiki/Form\\_based\\_authentication](http://en.wikipedia.org/wiki/Form_based_authentication))) と組み合わせて使用することが原因となっています。どの組み合わせでも正しく解釈されるのは、ASCII 文字のみです。

## 6.3 LDAP 同期およびログインでのユーザ名の文字制限

特殊文字 ( \ \* ? " < > : | ) が含まれる LDAP ユーザ名は Novell Vibe ユーザ名として使用できません。LDAP ディレクトリにこれらの文字が入ったユーザ名が含まれている場合、Vibe サイトとの同期は行われますが、関連付けられたユーザはログインできません。

これらの文字を Vibe ユーザ名に使用することはできません。これは、Vibe ユーザ名がユーザのワークスペースタイトルとなり、ワークスペースタイトルはワークスペースに導く階層パスの要素となるからです。これらの文字は Linux や Windows のパス名では正規文字ではありません。

## 6.4 ソフトウェアインストールディレクトリ名の文字制限

Novell Vibe ファイルのインストールディレクトリ名には拡張文字やダブルバイト文字は使用しないでください。Vibe ソフトウェアのデフォルト場所:

Linux: /opt/novell/teaming

Windows: c:\Program Files\Novell\Teaming

## 6.5 ファイルリポジトリディレクトリ名の文字制限

Novell Vibe ファイルリポジトリへのパスのディレクトリ名では拡張文字またはダブルバイト文字は使用しないでください。ファイルリポジトリのルートディレクトリのデフォルトの場所は、次のとおりです。

Linux: /var/opt/novell/teaming

Windows: c:\Novell\Teaming

Vibe サイトで表示したり、インデックス処理したりするために、さまざまなファイルタイプを HTML で表示する目的で使用される Oracle Outside In ビューアでは、拡張文字やダブルバイト文字が含まれるディレクトリ名は処理されません。

## 6.6 デフォルトのデータベース名

Novell Vibe インストールプログラムに Vibe データベースを作成させる場合、データベースは `sitescape` という名前を与えられます。このデータベース名は、現在、インストールプログラムで使用されるデータベース作成スクリプトにハードコーディングされています。名前は、以前に Vibe ソフトウェアを所有していた会社の名前まで遡ります。

Vibe データベースに別の名前を付ける場合、Vibe インストールプログラムを実行する前に、データベース作成スクリプトを編集してからデータベース作成スクリプトを手動で実行します。この処理を行う場合、Vibe インストールプログラムを実行する際に JDBC URL も更新する必要があります。新しいバージョンにアップグレードする前に、データベースアップグレードスクリプトもまた、変更する必要があります。

---

**重要 :** Vibe データベース名を変更することをお勧めします。

---

## 6.7 アプレットサポートの制限

アプレットは、1.6.0\_12 以前の Java ランタイム環境 (JRE) を搭載したシステムでは、64 ビット版 Firefox でサポートされていません。

アプレットは、64 ビットオペレーティングシステム上 (アプレットが動作できる JRE 1.6.0.12 以降の更新) で機能します。

たとえば、デスクトップからドラッグアンドドロップした複数ファイル、デスクトップからペーストされたファイル、その場編集、およびワークフローエディタでのグラフィック表示はアプレットがサポートされない場合機能しません。

## 6.8 Mac ユーザ用のその場編集サポート

Mac ユーザの場合、Mac ワークステーションの次のディレクトリから OpenOffice.org が検索されます。

`/Applications/OpenOffice.org.app`

組織の中で、OpenOffice.org の標準の場所がユーザのワークステーションごとに異なる場合、希望の場所で OpenOffice.org を検索するように Vibe を設定することができます。

- 1 以下のディレクトリに変更します。

Linux: `/opt/novell/teaming/apache-tomcat-version/  
webapps/ssf/WEB-INF/classes/config`

Windows: `c:\Program Files\Novell\Teaming\apache-tomcat-version\  
webapps\ssf\WEB-INF\classes\config`

- 2 テキストエディタで `ssf.properties` ファイルを開きます。
- 3 以下の内容で開始するラインブロックを探します。



edit.in.place.mac.editor

- 4 このラインセットをテキストエディタのクリップボードにコピーします。
- 5 `ssf.properties` ファイルと同じディレクトリに配置されている `ssf-ext.properties` ファイルを開きます。
- 6 コピーしたラインブロックを `ssf-ext.properties` ファイルの最後に貼り付けます。
- 7 組織での場所を反映するように、**OpenOffice.org** ソフトウェアの場所を編集します。
- 8 `ssf-ext.properties` ファイルを保存して閉じます。
- 9 保存しないで `ssf.properties` ファイルを閉じます。
- 10 **Vibe** サイトで新しいソフトウェアの場所が有効になるように、**Vibe** を停止して再起動します。

## 6.9 NFS サポート

**Vibe** ファイルリポジトリを **Vibe** が実行しているリモートサーバに配置するために、NFS ファイルシステムマウントがサポートされています。ただし、NFS ファイルシステムマウントは、Lucene\* インデックスを **Lucene Index Server** が実行しているリモートサーバに配置する場合にはサポートされていません。

## 6.10 Windows Server 2008 でのファイアウォール問題 R2

Windows Server 2008 R2 では、ファイアウォールはデフォルトで有効であり、ポート 80 および 443 はブロックされています。**Vibe** ではこれらのポートを使用する必要があるため、Windows サーバで **Vibe** は許可されたプログラムである必要があります。

**Vibe** で使用する Windows Server 2008 R2 マシンを準備するためには、次の手順に従ってください。

- 1 コントロールパネルで、*Windows Firewall* をダブルクリックします。
- 2 [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] をクリックします。
- 3 ファイアウォールを介して **Vibe** が使用する必要のあるポートを開きます。
  - 3a [ポートの追加] をクリックします。
  - 3b [名前] フィールドで、安全でない接続に対して **Vibe** が使用する HTTP ポートの記述的な名前を指定します。
  - 3c [ポート] フィールドで、80 を指定します。
  - 3d [OK] をクリックします。
  - 3e 安全な HTTP ポート 443 に対して、[ステップ 3a](#) ~ [ステップ 3d](#) を繰り返します。
- 4 2つのポートを定義した後で、[Windows ファイアウォールの設定] ダイアログボックスで [OK] をクリックして、これらのポートでファイアウォールを介して **Vibe** が通信することを許可します。

## 6.11 WebDAV サーバへの SSL 接続の JDK 依存関係

Novell Vibe サイトと WebDAV サーバ間で SSL 接続を使用する場合、および WebDAV サーバが証明機関によって与えられた証明書ではなく自己署名証明書を持つ場合は、Sun JDK を使用する必要があります。自己署名証明書を処理するための既存の Vibe 機能は、IBM JDK が自己署名証明書を処理する方法とは互換性がありません。

## 6.12 更新された Visual C++ 再配布可能パッケージ (Windows の場合)

Novell Vibe は、Vibe サイトでドキュメントとイメージを表示するためと、ドキュメントのインデックスを付けるために Oracle Outside In 8.3.2 ビューア技術を使用します。このビューア技術は、Microsoft Visual C++ 2005 再配布可能パッケージの SP 1 に依存します。Vibe をインストールする Windows サーバに、まだ Visual C++ 2005 再配布可能パッケージの最新バージョンがインストールされていない場合、Vibe サイトが適切に機能する前に、インストールする必要があります。必要な Visual C++ 2005 再配布可能パッケージのバージョンは、次のとおりです。

- ◆ Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ (x86) (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=200B2FD9-AE1A-4A14-984D-389C36F85647&displaylang=en>)
- ◆ Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ (x64) (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=EB4EBE2D-33C0-4A47-9DD4-B9A6D7BD44DA&displaylang=en>)

詳細については、Oracle サポート Web サイト (<http://www.oracle.com/support>) の「*New Dependency for Outside In 8.2.0 and Newer Versions, Windows Products Only*」(Doc ID 468895.1) を参照してください。サポートドキュメントにアクセスするには、Oracle のサポートサイトへのログインが必要です。

## 6.13 Access Manager との互換性

Novell Vibe を Novell Access Manager と正常に使用するには、Access Manager 3.1 SP1 IR1 が必要です。このバージョンは [Novell Downloads Web サイト \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) で利用できます。

## 7 Vibe の問題

- ◆ 11 ページのセクション 7.1 「LDAP 同期化の問題」
- ◆ 12 ページのセクション 7.2 「ワークスペースのコピー制限」
- ◆ 12 ページのセクション 7.3 「エクスポート/インポートの制限」
- ◆ 12 ページのセクション 7.4 「ZIP ファイルを作成すると 2 バイト文字を含むファイル名が変更される」
- ◆ 13 ページのセクション 7.5 「MySQL でのファイル削除の問題」
- ◆ 13 ページのセクション 7.6 「WebDAV を使用したファイルの名前変更の問題」
- ◆ 13 ページのセクション 7.7 「パスワード保護されたファイル」
- ◆ 13 ページのセクション 7.8 「ミラーリングフォルダ構造の制限」

- ◆ 13 ページのセクション 7.9 「ミラーリングフォルダバージョン管理の制限」
- ◆ 13 ページのセクション 7.10 「フォルダおよびワークスペースのネスティングの問題」
- ◆ 14 ページのセクション 7.11 「ライセンスレポートに関する問題」
- ◆ 14 ページのセクション 7.12 「カスタムエントリとビューの日付属性」
- ◆ 14 ページのセクション 7.13 「GroupWise メッセージからのドラッグアンドドロップ」
- ◆ 14 ページのセクション 7.14 「GroupWise 統合に関する問題」
- ◆ 15 ページのセクション 7.15 「電子メール送信時の Firefox の制限」
- ◆ 15 ページのセクション 7.16 「Windows Vista および Windows XP の WebDAV 機能向けの Windows Update」
- ◆ 15 ページのセクション 7.17 「Microsoft Windows Vista および Microsoft Office での WebDAV/ その場編集の問題」
- ◆ 16 ページのセクション 7.18 「Windows 7 での WebDAV/ その場編集の問題」
- ◆ 17 ページのセクション 7.19 「Windows Vista および Windows 7 での WebDAV URL の問題」
- ◆ 17 ページのセクション 7.20 「Mac における WebDAV の制限事項」
- ◆ 17 ページのセクション 7.21 「Windows XP を使用している場合、Windows エクスプローラで Vibe フォルダを表示すると別のフォルダも表示される」
- ◆ 18 ページのセクション 7.22 「OpenOffice.org でのデータクォータ問題」
- ◆ 18 ページのセクション 7.23 「Linux サーバの HTML 変換エラー」
- ◆ 19 ページのセクション 7.24 「ユーザプロファイルがカスタム JSP ファイルをサポートしない」

## 7.1 LDAP 同期化の問題

- ◆ 11 ページのセクション 7.1.1 「Vibe ユーザの初期同期の問題」
- ◆ 11 ページのセクション 7.1.2 「LDAP ディレクトリのユーザの名前変更と移動の問題」

### 7.1.1 Vibe ユーザの初期同期の問題

LDAP ディレクトリからユーザをインポートして、Novell Vibe OnPrem ユーザを作成した場合、ユーザを同期するために使用している LDAP 属性の値が一意でないときには、LDAP ディレクトリのすべてのユーザが Vibe に表示されないことがあります。たとえば、cn 属性を使用してユーザを識別したり、同じ cn 値をもつ複数のユーザがある場合、重複したユーザ名の最初のインスタンスのみが Vibe に同期されます。

この問題を解決するためには、emailAddress など、すべてのコンテナ全体に対して常に一意の値をもつ属性を使用してください。

### 7.1.2 LDAP ディレクトリのユーザの名前変更と移動の問題

LDAP ディレクトリのユーザの名前を変更したり移動すると、新しいユーザが Vibe で作成されることになる場合があります。LDAP ディレクトリのユーザの名前を変更したり移動するとき、Vibe は新しい名前（または同じ名前の新しい場所）が新しいユーザを表すものと想定し、変更されたユーザとは見なさないため、新しい Vibe ユーザが作成されるためです。

この問題を解決するためには、ユーザを一意で識別する LDAP 属性を指定する必要があります。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 インストールガイド](#)』の「[LDAP Connections](#)」にある「[LDAP Attribute to Identify a User or Group](#)」を参照してください。

## 7.2 ワークスペースのコピー制限

ワークスペースをコピーする際に、ワークスペースのカスタムフォームとワークフロー定義は、ワークスペースのコピーに転送されません。ワークスペースツリーの上位階層に定義を移動することによって、この制限に対処できます。

- 1 定義がある元のワークスペースのフォルダに移動します。
- 2 [ワークスペース] ツールバーで、[管理] > [フォームと表示デザイナー] の順にクリックします。
- 3 [フォームと表示デザイナー] ツリーを展開してから、移動する定義をクリックします。
- 4 [定義のプロパティ] ダイアログボックスで、[この定義を移動] をクリックし、Vibe サイトにワークスペースとフォルダツリーを表示してから、必要に応じてそのツリーを展開し、定義の適切な移動先を表示します。

オリジナルのワークスペースのコピーで定義を利用できるようにするには、オリジナルワークスペースとワークスペースのコピー両方の上のツリーの場所に定義を移動します。

Vibe サイトで全体的に定義を利用できるようにするには、ワークスペースとフォルダツリーのルートに定義を移動します。

- 5 定義を移動するには、[OK] をクリックします。
- 6 [閉じる] を2回クリックして、Vibe のメインページに戻ります。
- 7 定義がワークスペースのコピーで使用可能になったことを確認してください。
- 8 コピーされたワークスペースで使用可能にする必要のある定義ごとにこの手順を繰り返します。

## 7.3 エクスポート/インポートの制限

エクスポートされたワークスペース、フォルダ、またはエントリがエクスポートファイルに含まれないものにリンクされているとき、リンクは別の Vibe システムからインポートされている場合には機能しないことがあります。

## 7.4 ZIP ファイルを作成すると 2 バイト文字を含むファイル名が変更される

Vibe 3 を使用し、ファイル名に 2 バイト文字を含むファイルを持つ ZIP ファイルを作成すると、ダウンロードされたファイルのファイル名が `_file1`、`_file2`、`_file3` などのように表示されます。これは、Java の ZIP ファイル機能が 2 バイト文字を含むファイル名を作成できないことが原因です。

Vibe 内のファイルは変更されません。

Vibe のファイルのダウンロード方法に関する詳細は、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 ユーザガイド](#)』の「[Downloading Files](#)」を参照してください。

## 7.5 MySQL でのファイル削除の問題

MySQL を使用している場合、ファイルをアップロードしてそのファイルを削除する場合に次のエラーが表示される可能性があります。

```
class org.hibernate.exception.GenericJDBCException  
Cannot release connection
```

これは [MySQL の欠陥 \(http://bugs.mysql.com/bug.php?id=45357\)](http://bugs.mysql.com/bug.php?id=45357) に関連しています。この問題を解決するためには、MySQL をバージョン **5.1.40** またはそれ以降 (<http://dev.mysql.com/downloads/mysql>) にアップデートしてください。

## 7.6 WebDAV を使用したファイルの名前変更の問題

WebDAV クライアントを使用して Vibe ファイルの名前を変更すると、添付ファイルの名前のみが変更されます。この処理では、ファイルが関連付けられている Vibe フォルダエントリのタイトル名は変更されません。

これは、関連ファイルのファイル名に関係なく、選択した任意のタイトルをファイルエントリの作成時に指定できるようにする、最近 Vibe に追加された機能が原因です。従来、すべてのファイルエントリのタイトルは、関連ファイルのファイル名と同じでした。

## 7.7 パスワード保護されたファイル

作成元のアプリケーションでパスワード保護されているファイルは Novell Vibe サイトでは表示できません。この動作は仕様によるものです。

## 7.8 ミラーリングフォルダ構造の制限

Novell Vibe Move は使用できません。このフォルダ機能は、1 つのミラーリングフォルダを別のミラーリングフォルダ内部に移動させます。

## 7.9 ミラーリングフォルダバージョン管理の制限

ミラーリングフォルダ内のファイルを編集してからバージョン履歴を確認する場合、最新バージョンのファイルのみを表示して、最新バージョンのファイルのみがミラーリング場所からの編集に使用できます。この動作は仕様によるものです。ミラーリングフォルダでのマニュアルのバージョン管理は現在使用できません。

## 7.10 フォルダおよびワークスペースのネスティングの問題

データベースの制約のため、Vibe が許可するネストされたフォルダとワークスペースの最大数は 45 です。たとえば、フォルダ内にフォルダを作成し、その後そのフォルダ内にフォルダを作成するなど、フォルダ構造は 45 階層の深さまで作成できます。フォルダ構造では 45 階層を超えることはできません。

## 7.11 ライセンスレポートに関する問題

Novell Vibe ライセンスの現在の使用状況は、*[Administration]* アイコンをクリックし、*[Reports]* にある *[License Report]* をクリックして確認できます。ライセンスレポートでは、現在管理者、ゲスト、3 個の内部ユーザ（*\_emailPostingAgent*、*\_jobProcessingAgent*、および *\_synchronizationAgent*）をローカルユーザとしてカウントします。管理者はアクティブなユーザをカウントしますが、他の 4 つのローカルユーザは Vibe ライセンスの使用に対してカウントしません。

## 7.12 カスタムエントリとビューの日付属性

カスタムエントリまたはビューで日付属性を使用する場合、異なるタイムゾーンのユーザには自分が見ているものと比べて異なる日付が表示される可能性があります。

Novell Vibe では、Vibe ユーザのタイムゾーンで選択された日付は真夜中の時間として、GMT 時間で保存されます。したがって、たとえば山岳部タイムゾーンの 2010 年 1 月 13 日は GMT-7:00 (20100113T0700) として保存されます。同じタイムゾーンの人達にとっては問題ありません。ただし、異なるタイムゾーンの人達にとっては、山岳部タイムゾーンの真夜中は異なる日付である場合があります。この矛盾は今後のリリースで解決されます。

## 7.13 GroupWise メッセージからのドラッグアンドドロップ

GroupWise クライアントで、GroupWise メッセージに添付されたファイルをドラッグできず、[フォルダエントリ] ツールバーで [フォルダへファイルを追加] をクリックしたときに開く *Novell Vibe* ドラッグアンドドロップウィンドウに、それを正常にドロップします。最初に添付ファイルを保存してから、保存したファイルをドラッグアンドドロップウィンドウにドラッグアンドドロップします。

## 7.14 GroupWise 統合に関する問題

GroupWise Windows クライアントから Novell Vibe サイトにアクセスするには、GroupWise ユーザのワークステーションの時間設定が Vibe サーバの時間設定と 5 分以内で一致する必要があります。5 分以上の不一致がある場合、GroupWise クライアントの Vibe サイトへの接続試行がタイムアウトします。可能であれば、サーバまたはワークステーションの時間を、正しい一致した時間にリセットします。

時間差がシステム構成に必要な一部である場合、[WS-Security \(http://en.wikipedia.org/wiki/Web\\_Services\\_Security\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Web_Services_Security) を通して Vibe サイトに認証を与える GroupWise などの Web サービスのタイムアウト設定を変更できます。

- 1 次のファイルのバックアップコピーを作成します。

```
teaming_directory/webapps/ssf/WEB-INF/server-config.wsdd
```

- 2 server-config.wsdd ファイルをテキストエディタで開きます。

- 3 次のセクションを検索します。

```
<handler type="java:org.apache.ws.axis.security.WSDoAllReceiver">
<parameter name="passwordCallbackClass"
value="org.kablink.teaming.remoting.ws.security.PWCallback" />
<parameter name="action" value="UsernameToken Timestamp" />
</handler>
```

- timeToLive パラメータに大きなタイムアウト値 (たとえば、24 時間を示す 86400) を挿入します。

```
<handler type="java:org.apache.ws.axis.security.WSDoAllReceiver">
<parameter name="passwordCallbackClass"
value="org.kablinc.teaming.remoting.ws.security.PWCallback"/>
<parameter name="action" value="UsernameToken Timestamp"/>
<parameter name="timeToLive" value="86400"/>
</handler>
```

- server-config.wsdd ファイルでセクションの秒インスタンスに対して、[ステップ 3](#) と [ステップ 4](#) を繰り返します。
- server-config.wsdd ファイルを保存してから、サーバを再起動します。

この設定の変更は、GroupWise のみでなく WS-Security を使用してサーバに認証を与えるすべてのクライアントアプリケーションに影響を与えます。

## 7.15 電子メール送信時の Firefox の制限

Novell Vibe サイトから電子メールメッセージを送信する場合に、[\[電子メールアドレスを追加\]](#) フィールドで入力ミスまたは無効な受信者がある場合、エラーと [\[前のページに戻る\]](#) ボタンが表示されます。Firefox では、[\[電子メールを送信\]](#) ページに戻りますが、メッセージ内容は失われます。Internet Explorer では、メッセージ内容が保持されます。

Firefox を使用して電子メールを Vibe サイトから送信する場合、可能な限り Vibe ユーザを受信者として選択します。または、[\[電子メールアドレスを追加\]](#) フィールドで誤字を避けるために受信者の電子メールアドレスをコピーします。

## 7.16 Windows Vista および Windows XP の WebDAV 機能向けの Windows Update

---

**重要:** この更新プログラムは、Windows Vista および Windows XP にのみインストールします。Windows 7 にこの更新プログラムをインストールしないでください。

---

Windows Vista および Windows XP のブラウザで Novell Vibe のその場編集機能を使用するには、次の Windows WebDAV アップデートをインストールする必要があります。

[Web フォルダのソフトウェア更新プログラム \(KB907306\) \(http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=17C36612-632E-4C04-9382-987622ED1D64&displaylang=en\)](http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=17C36612-632E-4C04-9382-987622ED1D64&displaylang=en)。

この Windows 更新プログラムは、OpenOffice.org と Microsoft Office が Vibe その場編集機能と正しく相互動作できるようにします。

## 7.17 Microsoft Windows Vista および Microsoft Office での WebDAV/ その場編集の問題

Microsoft Windows Vista には、すべての WebDAV 相互動作に影響を与える WebDAV アクセスに関する問題があります。また、アプレットに関する Vista 特有の問題は、Novell Vibe その場編集機能が正しく動作するのを妨げます。必ず、最新バージョンの Vista を実行してください。[15 ページのセクション 7.16 「Windows Vista および Windows XP の WebDAV 機能向けの Windows Update」](#) に記載されている Windows WebDAV 更新プログラムがインストールされていることを確認してください。

Internet Explorer を使用している Windows Vista ユーザはその場編集を使用しようとすると Java 警告が表示される場合があります。(Firefox ユーザには、このエラーは表示されません)。

Vibe のその場編集機能をサポートするように Internet Explorer を設定するには：

- 1 Internet Explorer で [ツール] > [インターネットオプション] の順にクリックします。
- 2 [セキュリティ] をクリックし、[信頼済みサイト] を選択してから、[サイト] をクリックします。
- 3 [この Web サイトをゾーン追加する] フィールドで、Vibe サーバの URL を指定してから、[追加] をクリックします。
- 4 [このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認(https)を必要とする] を、Vibe サーバに応じて選択または選択解除します。
- 5 [閉じる] をクリックしてから、[OK] をクリックしてセキュリティ設定を保存します。

Windows Vista が Vibe その場編集機能を Microsoft Office でサポートするように設定するには、各 Microsoft Office アプリケーションの Windows レジストリに新しいキーを追加する必要があります。

- 1 Windows エクスプローラで、Program Files/Microsoft Office/Office12 にナビゲートします。
- 2 順番に各 Microsoft Office .exe を下にスクロールします。  
excel.exe  
powerpnt.exe  
winword.exe  
...
- 3 各実行可能ファイルを右クリックしてから、[プロパティ] をクリックします。
- 4 [互換性] をクリックします。
- 5 [互換モードでこのプログラムを実行する] を選択して、ドロップダウンリストから [Windows XP (Service Pack 2)] を選択します。
- 6 コンピュータを再起動します。

Microsoft Office ファイルを使った Vibe その場編集機能を使用できるようになりました。

---

**注：**これらの手順によって、Vibe のその場編集機能は有効になりますが、Vibe で WebDAV を使用して添付できない Vista の問題は修復されません。

---

アプレットの詳細については、次の Sun の情報を参照してください。

- Bug 6440902 ([http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6440902](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6440902))
- Bug 6432317 ([http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6432317](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6432317))

## 7.18 Windows 7 での WebDAV/ その場編集の問題

Windows 7 ワークステーションで Office 2007 または Office 2010 を使用して Word ドキュメントを編集するために Novell Vibe のその場編集機能を使用する場合、Word では編集済みのファイルが Vibe サイトに保存されずに、ユーザに対して保存場所を指定するよう要求します。セキュア (HTTPS) または非セキュア (HTTP) のいずれの接続を使用して Vibe を



実行するかに応じて、Vibeに必要な設定が異なります。詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 管理者ガイド](#)』の「[Configuring Vibe to Support WebDAV on Windows 7](#)」にある「[Editing Files with Edit-in-Place Functionality](#)」を参照してください。

## 7.19 Windows Vista および Windows 7 での WebDAV URL の問題

Novell Vibe フォルダに関連付けられた WebDAV URL をコピーして、ネットワークの場所の追加機能を使用しようとする、Windows Vista および Windows 7 ではドライブをマップできない可能性があります。Windows Vista および Windows 7 で Vibe を使用する場合は、代わりにネットワークドライブのマップ機能を常に使用する必要があります。

## 7.20 Mac における WebDAV の制限事項

Mac 環境で WebDAV 機能を使用する場合、さまざまな制限が生じます。

- ◆ [17 ページのセクション 7.20.1「WebDAV を使用して Mac 上でファイルを編集する際の制限事項」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 7.20.2「WebDAV を使用して Mac 上で Vibe フォルダを表示する際の制限事項」](#)

### 7.20.1 WebDAV を使用して Mac 上でファイルを編集する際の制限事項

Microsoft Office をドキュメントエディタとして使用する場合、Mac ではその場で編集機能がサポートされません。Mac でその場で編集機能を使用するには、ドキュメントエディタに OpenOffice を使用する必要があります。

詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザガイド](#)』の「[Using WebDAV to Edit Individual Files](#)」を参照してください。

### 7.20.2 WebDAV を使用して Mac 上で Vibe フォルダを表示する際の制限事項

Mac における WebDAV の制限のため、Mac 環境では WebDAV を使用して Vibe フォルダを表示できません。

詳細については、『[Novell Vibe OnPrem 3.1 上級ユーザーガイド](#)』の「[Using WebDAV on a Vibe Folder](#)」を参照してください。

## 7.21 Windows XP を使用している場合、Windows エクスプローラで Vibe フォルダを表示すると別のフォルダも表示される

Windows XP では、Windows エクスプローラを使用して Vibe フォルダを表示すると、親フォルダと同じ名前の別のサブフォルダが表示されることがあります。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

- 1 Web ブラウザを起動します。

- 2 Microsoft ダウンロードセンターに移動し、Web フォルダ用のソフトウェア更新プログラム (KB907306) をインストールします。<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=17C36612-632E-4C04-9382-987622ED1D64&displaylang=en>
- 3 画面の指示に従って、ソフトウェア更新プログラムをインストールします。

## 7.22 OpenOffice.org でのデータクォータ問題

OpenOffice.org では、編集済みドキュメントを終了する際に 1 つの新しいバージョンが作成されるのではなく、[保存] をクリックするたびに新しいドキュメントバージョンが作成されます。この現象のおかげで、急速にデータクォータに達してしまう可能性があります。同じドキュメントの不要なバージョンの作成は回避して構いません。それらが作成された場合も、削除できます。

- ◆ 18 ページのセクション 7.22.1 「不要なドキュメントバージョンの作成の回避」
- ◆ 18 ページのセクション 7.22.2 「ドキュメントの不要なバージョンを削除する」

### 7.22.1 不要なドキュメントバージョンの作成の回避

同じドキュメントの不要なバージョンの作成を回避するには、次のいずれかの操作を行います。

- ◆ ドキュメントを編集する際に、何度も [保存] をクリックしないでください。その代わりに、OpenOffice.org でドキュメントを閉じる前に一度だけ [保存] をクリックします。
- ◆ Vibe でドキュメントを編集する場合、Microsoft Word などの OpenOffice.org 以外のドキュメントエディタを使用します。

### 7.22.2 ドキュメントの不要なバージョンを削除する

『Novell Vibe OnPrem 3.1 ユーザガイド』の「[Deleting Existing Versions of a File](#)」での説明に従って、ファイルの特定のバージョンを削除できます。

## 7.23 Linux サーバの HTML 変換エラー

ファイルを表示しようとした際に、HTML Conversion Error が表示される場合は、Vibe Linux サーバに必要なライブラリが存在しない可能性があります。

不明なライブラリをインストールする

- 1 以下のディレクトリに変更します。  
`/opt/novell/teaming/stellent-converter/linux/x86`
- 2 exporter プログラムを実行します。  
見つからない入力ファイルおよび出力ファイルに関するエラーが予測されます。
- 3 見つからないライブラリに関するエラーを探します。
- 4 ライブラリエラーがある場合は、見つからないライブラリをインストールします。



- ◆ 21 ページのセクション 9.4 「動作状況ログの中国語文字」
- ◆ 21 ページのセクション 9.5 「ファイル名の国際文字に関連する Internet Explorer 6 の制限」

## 9.1 電子メールメッセージ内の拡張文字を含むユーザ名を GroupWise で表示しようとすると表示されない

拡張文字を含むユーザ名は、Vibe から送信され、GroupWise で表示された電子メールメッセージの [From] の領域には表示されません。

この問題を解決するには、Vibe サーバの起動スクリプトを変更する必要があります。起動スクリプトとその場所は、Vibe のインストールが Linux または Windows サーバのいずれかで実行されているかに応じてわずかに異なります。

- ◆ 20 ページのセクション 9.1.1 「Linux」
- ◆ 20 ページのセクション 9.1.2 「Windows」

### 9.1.1 Linux

- 1 catalina.sh ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルは、次のディレクトリ内にあります。

```
opt/novell/teaming/apache-tomcat/bin
```

- 2 ファイル内で UTF8 を検索し、UTF-8 に変更します。
- 3 Vibe サーバを停止および再起動します。

### 9.1.2 Windows

- 1 service.bat ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルは、次のディレクトリ内にあります。

```
c:\Program Files\Novell\Teaming\apache-tomcat\bin
```

- 2 ファイル内で UTF8 を検索し、UTF-8 に変更します。
- 3 catalina.bat ファイルをテキストエディタで開きます。このファイルは、次のディレクトリ内にあります。

```
c:\Program Files\Novell\Teaming\apache-tomcat\bin
```

- 4 ファイル内で UTF8 を検索し、UTF-8 に変更します。
- 5 Vibe サーバを停止および再起動します。

## 9.2 簡易 URL に拡張文字を使用できない

ワークスペースのデフォルトの設定ページで、URL の定義フィールドは拡張文字を受け入れません。簡易 URL には、英数字のみを使用します。

## 9.3 添付ファイル名の拡張文字と 2 バイト文字

Outlook が Novell Vibe サイトにポストを送信する場合、またメッセージがファイル名に拡張文字または 2 バイト文字が付けられた添付ファイルを持つ場合、Exchange サーバが適切に設定されるまで、添付ファイルは Vibe サイトに届けられません。Exchange サーバが

ファイル名を正しく渡すように設定するには、「[OWA からの送信時に外国文字が疑問符 \(?\) で表示される \(http://www.windowsnetworking.com/kbase/WindowsTips/Windows2000/AdminTips/Exchange/ForeigncharactersappearasquestionmarkswhensentfromOWA.html\)](http://www.windowsnetworking.com/kbase/WindowsTips/Windows2000/AdminTips/Exchange/ForeigncharactersappearasquestionmarkswhensentfromOWA.html)」の手順に従います。

## 9.4 動作状況ログの中国語文字

アクティビティレポートの report.csv ファイルを Microsoft Excel\* で開く際、report.csv ファイルが正しく作成されていたとしても、中国語の文字は正しく表示されません。これは Excel では ISO ラテン語の文字セットをしようしてファイルが常に読み取られるためです。

1つの回避策は、Excel の代わりに OpenOffice.org Calc スプレッドシートプログラムを使用することです。この場合、中国語の文字は正しく表示されます。

Excel での回避策：

- 1 [データ] > [外部データの取り込み] > [データの取り込み] を使用して、report.csv ファイルを Excel にインポートします。
- 2 report.csv ファイルを選択してから、[開く] をクリックします。
- 3 [区切り記号] を選択して [UTF-8] を選択してから [次へ] をクリックします。
- 4 区切り記号として [カンマ] を選択し、[次へ] をクリックしてから、[終了] をクリックします。

Excel で中国語文字が正しく表示されるようになりました。

## 9.5 ファイル名の国際文字に関連する Internet Explorer 6 の制限

Internet Explorer 6 で、ファイル名に国際文字が含まれているファイルを [ファイル] フォルダにアップロードする場合、そのファイルを編集して新しいバージョンを作成する場合、そのファイルのオリジナルバージョンへのリンクは機能しません。それは、Internet Explorer 6 でファイル名がダブルエンコーディングされるためです。この問題を解決するには、Internet Explorer 7 以降に更新してください。

## 10 セキュリティの問題

Novell Vibe サイトの安全性が適切に確保されるようにするには、オペレーティングシステムにすべてのパッチおよびセキュリティ修正プログラムを適用し、常に更新された状態に保ちます。

## 11 Vibe 3.1 バグフィックス

Vibe OnPrem3 以降に修正されたバグのリストについては、[Novell Vibe OnPrem 3.1 Bug List \(http://www.novell.com/documentation/vibe\\_onprem31/vibe31\\_fixes/vibe31\\_fixes.html\)](http://www.novell.com/documentation/vibe_onprem31/vibe31_fixes/vibe31_fixes.html) を参照してください。各バグに関する詳細は、[Bugzilla \(https://bugzilla.novell.com\)](https://bugzilla.novell.com) のバグ番号を参照することができます。

## 12 Vibe のマニュアル

次の各ソースには、NovellVibe 3.1 に関する情報が記述されています。

- ◆ オンライン製品マニュアル : [Novell Vibe 3.1 マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/vibe\\_onprem31\)](http://www.novell.com/documentation/vibe_onprem31)
- ◆ Novell Vibe に付属する製品マニュアル :
  - ◆ ヘルプシステム : Vibe のホームページの右上隅にある [ヘルプ] アイコン (疑問符) をクリックします。

Novell Vibe 製品マニュアルに加えて、次のリソースでは Vibe 3.1 に関する追加の情報が提供されます。

- ◆ [Novell Vibe 製品サイト \(http://www.novell.com/products/vibe\)](http://www.novell.com/products/vibe)
- ◆ [Novell Vibe リソースライブラリ \(http://www.novell.com/products/vibe-onprem/resource-library/\)](http://www.novell.com/products/vibe-onprem/resource-library/)
- ◆ [Novell Vibe Cool Solutions \(http://www.novell.com/communities/cool solutions/vibe-onprem\)](http://www.novell.com/communities/cool solutions/vibe-onprem)
- ◆ [Novell Vibe サポートフォーラム \(http://forums.novell.com/novell-product-support-forums/vibe/vibe-onprem/\)](http://forums.novell.com/novell-product-support-forums/vibe/vibe-onprem/)

## 13 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2011 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製・転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。